

## 第4学年 社会科学習指導案

### 1 単元名 「そのごみ，どうするの - ごみべらし作戦を考えよう - 」

### 2 単元について

本単元では，燃えるごみや燃えないごみの適切な処理，資源ごみの再利用に気付かせ，それらのごみ処理には多額のお金が使われていることやごみ処理に人々の協力が必要であることについて考えさせていく。さらに，ごみを減らす対策について考えることを通して，これからの社会の姿について自分なりの考えをもてるようにすることをねらいとしている。

戦後，物を消費する社会が続き，ごみは年々増える一方であった。そのような中で，近年，地球環境を守ることがうたわれ，「エコブーム」ともいべき環境保全のブームが起こり，ごみを減らそうという取り組みが様々なところでなされている。例えば，スーパーマーケットでは，レジ袋を有料化したり，マイバックを推進したりしている。佐賀市では，市指定のごみ袋で分別し，ごみを出すような制度を設けている。佐賀市のごみ減らし対策として「1に減量，2に再利用，3にリサイクル」という呼び掛けを行ったり，佐賀市環境センターでは，ごみを処理する際に排出される熱を利用して電気を起こし，その電気をごみ処理や市民の運動施設に使ったりしている。

しかしながら，佐賀市におけるごみの排出量が毎年増加し，さらに，ごみ処理にかかる費用も年々増大している。ごみ処理を行うには，環境を悪化する煙を出さないような設備をそろえたり，処理するのに多くの電気や水を使わなくてはならなかったりする。これでは，限りある予算の中でごみ処理に無駄なお金を使うことになっているとともに，環境保全に反しているといえる。

以上のことから，ごみ処理は効率的・総合的に行われていること，ごみ処理には市の財政や環境問題とつながりがあることを理解させるために，ごみ問題にかかわる取り組みを通して，ごみ問題を抱えたこれからの社会について自分なりの考えをもてるようにすることは意義あることと考える。

本学級において，社会科の学習が好きな児童は多い。これまでに安全な暮らしを守る仕事として警察署と消防署などの関係機関の働きとそれに従事する人々の働きについて学習した。それらの学習では，署の見学を行い，事件や事故，火災が起きたときの対処の仕方について調べている。しかし，見学による学習や写真からの読み取りの活動に関心をもって取り組めるが，文書資料の読み取りを主にした活動になると興味を示さなくなってしまう。また，価値判断を問うような話し合い活動をした経験はない。

ごみについては，ごみステーションにごみが出されることを知っているが，そのごみの行き先については知らない。また，ごみの処理方法についても知らない。さらに，ごみの量やごみの処理費用増大について考えた機会はないようである。

指導に当たっては，ごみの増加による処理費用が増大しているという状況から，ごみの増加が社会的な問題であることに気付かせ，ごみを減らすことが望ましい社会になることの期待感をもたせたい。

そこで，まず，家庭のごみのゆくえやごみの分別を確かめることで，ごみに関心をもたせる。また，ごみがどのように処理されるかについて疑問をもたせる。そして，学習テーマ「ごみがどのようにしよりにされているのだろうか。」を設定する。

次に，ごみ処理施設である環境センターの仕組みや最終処分場の働き，現在，市や商店で行われているごみを減らす対策を調べさせることで，児童は，ごみは効率的に処理されていることやごみを減らすためにいろいろな人々が努力していることを理解できるようにする。この調べ活動で，ごみ処理がくらしの改善につながることから，ごみにかかわる問題を解決することで望ましい社会になることに気付かせたい。さらに，調べ活動後，ごみの処理量とごみ処理費用が増大している問題が起きていることから，学習テーマ「ごみべらし作戦を考えよう」を設定する。その後，作戦のプランを考えさせ，「問題が早期解決するか」「実行をし

ようと思うか」などの観点からプランの比較・検討をさせる話し合いの場を設定する。これによって、それぞれのプランの大事にしている点や問題点が整理され、それぞれのプランから導かれる社会観が明確になる。

このように、ごみを減らすプランについて検討させることで、自分の生活を見直し、さらにはこれからの望ましい社会を志向する契機になると思われる。

### 3 単元の総括目標

佐賀市のごみ処理について考えることを通して、ごみの能率的・総合的な処理方法や資源の再利用のための対策について理解し、ごみ問題の解決のために生活を見直したり、これからどうすべきかを考えたりすることができるようにする。

### 4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
大量のごみの処理やその対策に関心を持ち、見学したり、資料を見たりして意欲的に調べようとする。	ごみを減らすプランを具体的に考えたり判断したりすることを通して、ごみ問題について自分の考えをもつことができる。	ごみについての現状を把握したり、ごみ処理について見学したりすることで、ごみに関する資料をプランにまとめることができる。	ごみを減らすことや資源を再利用することには、市民一人一人の協力が欠かせないことを理解することができる。

### 5 単元の指導計画 (全11時間)

学習活動	教師の指導・支援	評価【評価方法】	時配
1 ごみの分別やごみ袋の値段を当てるクイズをすることで、ごみと暮らしについて関心をもつ。	ごみとくらしとのかかわりについて関心をもたせるために、現在のくらしについて振り返らせる。 ごみがどのように処理されているかについて疑問をもたせ、学習テーマを設定する。	・ ごみについて感想を書くことができる。 【ワークシート】	1
ごみは、どのようにしよりにされているのだろうか			
2 ごみの処理方法(家庭からのごみのゆくえ)について調べる。	ごみのゆくえを資料から読み取り、ごみが処理されるためにどのような過程であるかを知り、ごみ処理に多くの人々が携わっていることに気付かせる。	・ ごみ処理方法の工夫や努力に気付くことができる。 【発言・ワークシート】	1
3 環境センターを見学し、ごみの処理方法を調べる。また、資源化センターと最終処分場のビデオから、資源ごみなどの処理方法について調べる。	環境センターでのごみ処理の仕組みやセンターで行われている市民サービスについて調べさせる。 資源ごみは環境センターとは別に処理されることから、資源の再利用と環境保全とのつながりに気付かせる。	・ 環境センター等のしくみとごみ処理の利用についての仕組みを理解することができる。 【ワークシート】	4

<p>4 ごみの量とごみの処理費用の両方が増加しているグラフを読み取ることで、ごみが社会的な問題であることに気付く。</p>	<p>ごみにかかわる現状を知り、ごみが社会的な問題であることに気付かせる。 既習のごみ問題を再提起し、問題解決の意欲を高めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ問題を理解することができる。 【ワークシート】</li> </ul>	<p>1</p>
<p>「ごみべらし作戦」を考えよう</p>			
<p>5 「ごみ減らし作戦」のプランを作成する。</p> <p>【予想される児童のプラン】</p>	<p>これまでの学習から、ごみが減るにはどうすればよいのかを考えさせ、プランを作成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プランをつくることができる。 【ワークシート】</li> </ul>	<p>1</p>
<p>A：燃えるごみのごみ袋を1枚400円にする B：レジ袋を高いねだんにする C：商品に「ごみ税」をつける D：ごみを減らそうキャンペーンをする 等</p>			
<p>6 プランを出し合い、自分の立場を決める。また、プラン決定に向けた準備を行う。</p>	<p>調べてきたことを基に考えを交流させる。 自分の考えで大事にしていることをはっきりさせるためにワークシートを工夫しておく。 判断を容易にするために、支持が多い2つのプランから選択させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみとくらしの問題点を見付けることができる。 【発言】</li> <li>プランの決定とその理由を書くことができる。 【ワークシート】</li> </ul>	<p>1</p>
<p>7 ごみを減らす対策として、どのプランがよいかの議論を行う。</p>	<p>「ごみが早期で減るか」「大勢の人が行えるか」の観点を意識させる。 プランの比較や意見の交流を行わせ、それぞれの考えで大事にしていることや問題点を明確にさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プランの選択とその理由を書くことができる。 【ワークシート】</li> </ul>	<p>1</p>
<p>8 議論を振り返り、自分の考えをまとめる。</p>	<p>議論の振り返りから「目指す社会」像を導き出させ、これまでの自分の考えの見直しをさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再度プランの選択ができる。 【ワークシート】</li> </ul>	<p>1 本時</p>

## 6 本時の目標

ごみ減らしのプランを比較・検討することで、目指す社会の在り方について判断することができる。  
(社会的な思考・判断)

## 7 本時の展開 (11 / 11)

主な学習活動	教師の指導・支援												
1 本時の課題を確認する。	前時の意見交流により、それぞれの考えが深まったことを称賛するとともに、本時では、更に考えを深めて判断することを伝え、学習への意欲をもたせる。												
ごみべらし作戦のプランから「めざす社会」を考えよう													
2 議論を行う。 プランの確認をする。  プランの比較・検討をする。 ＜予想される児童の考え例＞	2つのプランの内容を確認させるために、数名の児童を指名し、それぞれのメリット、デメリットの説明をさせる。												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">プランA 【物をさいごまでつかうように、チラシでよびかける】</th> <th style="width: 20%;">xをつける</th> <th style="width: 40%;">プランB 【レジぶくろを高いねだんにする】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・物をさいごまで使えば、ごみになりにくいから。 ・ごみをへらそうとする気持ちになるから。</td> <td style="text-align: center;">ごみが へるぞ 効果</td> <td>・エコバックを使えば、レジ袋がごみにならない。 ・お金が、ごみ処理費用に回されるから。</td> </tr> <tr> <td>・ごみをへらそうという気持ちになるから。 ・リサイクルしようと思うから。</td> <td style="text-align: center;">ごみを へらすぞ 住民情</td> <td style="text-align: center;">x</td> </tr> <tr> <td>ごみはへりにくいけど、進んでやってみようという社会</td> <td>めざす社会</td> <td>強制的だけど、ごみはへる社会</td> </tr> </tbody> </table>	プランA 【物をさいごまでつかうように、チラシでよびかける】	xをつける	プランB 【レジぶくろを高いねだんにする】	・物をさいごまで使えば、ごみになりにくいから。 ・ごみをへらそうとする気持ちになるから。	ごみが へるぞ 効果	・エコバックを使えば、レジ袋がごみにならない。 ・お金が、ごみ処理費用に回されるから。	・ごみをへらそうという気持ちになるから。 ・リサイクルしようと思うから。	ごみを へらすぞ 住民情	x	ごみはへりにくいけど、進んでやってみようという社会	めざす社会	強制的だけど、ごみはへる社会	
プランA 【物をさいごまでつかうように、チラシでよびかける】	xをつける	プランB 【レジぶくろを高いねだんにする】											
・物をさいごまで使えば、ごみになりにくいから。 ・ごみをへらそうとする気持ちになるから。	ごみが へるぞ 効果	・エコバックを使えば、レジ袋がごみにならない。 ・お金が、ごみ処理費用に回されるから。											
・ごみをへらそうという気持ちになるから。 ・リサイクルしようと思うから。	ごみを へらすぞ 住民情	x											
ごみはへりにくいけど、進んでやってみようという社会	めざす社会	強制的だけど、ごみはへる社会											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目ごとに評価し、その理由を書く。</li> <li>・「めざす社会」像を考える。</li> </ul>	<p>比較を容易にするために、プランを評価する際、「効果」「住民感情」という2つの観点を与える。</p> <p>児童とともに話し合う中で、プランのプラス面やマイナス面を明確にする。</p> <p>公正な判断を行わせるため、2つのプランとも政策であり、強制力や多くの市民の参加が必要であることを告げる。</p> <p>評価とその理由を基に、「めざす社会」像を考えさせる。</p> <p>選択は個人で行わせる。理由も書かせることで、判断に責任をもたせるようにする。</p>												
3 プラン（めざす社会）を選択する。	児童の選択したプランを集約し、判断理由の確かめを行うことで、検討を終了させる。【評価】												
4 本時のまとめをする。	これからの暮らしについて問い掛け、ごみを減らすくらしになるような期待をもたせる。												

## 8 本時の評価

評価規準	これからの社会の在り方についての判断として、プランの選択をすることができる。		
評価基準 支援	A	B	C
	<p>選択の理由に具体例を挙げている。</p> <p>具体例に説得力があるか、他の例が挙げられないか考えるよう声掛けする。</p>	<p>プランを選択し、選択理由を1つ以上挙げている。</p> <p>選択した理由に具体例を入れるよう声掛けする。</p>	<p>プランを選択することができない。または選択できても、選択の理由を挙げることができない。</p> <p>くらしやすい社会であるプランを、板書を基に考えさせる。</p>
評価方法	ワークシート		